

地域資源デジタルアーカイブによる 知の拠点形成のための基盤整備事業

現状と課題認識

- 地域の大学は知の拠点として地域で活躍できる人材の育成が使命である。しかし、これまで地域との連携は十分でなく、地域の真のニーズに応えた教育や研究が大学でなされてきたとは言い難い。
- 特に、農山間地が多く自然が豊かな岐阜県では、木工等に関する伝統文化産業の継承や美しい文化遺産の活用と新たな観光資源の発掘が重点課題となっており、それを担う人材の育成と供給が重要となってきた。
- このために本学では、デジタルアーカイブの拠点大学として、2013年より「知の増殖型サイクル」を開発し、観光、教育、企業分野での人材育成の試行研究を行ってきた。
- その研究成果として、沖縄や高山の観光の振興並びに沖縄県の小学校では有意な学力の向上が認められ、デジタルアーカイブの利活用が本事業の推進に有効との感触を得た。

計画の内容

①飛騨高山の匠の技デジタルアーカイブと伝統文化産業の振興

- 伝統文化産業（飛騨春慶・一位一刀彫等）を多視点でデジタルアーカイブし、歴史的な視点を総合的にまとめ、匠の“こころ”をオーラルヒストリー等により「知の増殖型サイクル」を構成し、これらの一部を海外へ発信することにより伝統文化産業の振興を図る。
- 伝統文化産業における匠の技とその歴史的な背景をまとめてデジタルアーカイブ化することで、伝統文化産業の理解と継承が容易になる。さらに、継承の過程で生まれた新しい知見を「知の増殖型サイクル」で取り込み、その利活用によって地域社会の振興を支援できる。

②郡上白山文化遺産のデジタルアーカイブと新たな観光資源の発掘

- 郡上白山文化遺産のデジタルアーカイブ（文化遺産の収集と調査、建造物・建築物群の歴史的な価値の調査、白山信仰の三馬場の調査）において「知の増殖型サイクル」を構成し、世界遺産への登録を支援する。
- 郡上白山の文化遺産の調査、建造物、建築物群の歴史的・文化的価値の調査並びに白山信仰の三馬場の調査を綿密に行い、デジタルアーカイブ研究により、新たな観光資源の発掘を支援できる。

③デジタルアーカイブ研究の拡充による地方創成イノベーションの創出

- 本事業は、フィールドにおける効果検証をするためのデジタルアーカイブ研究として捉え、解の見えない地域課題の解決をするための地域資源デジタルアーカイブとそのメソッドを確立することである。
- 地域の知が適切に循環・増殖することで新たな価値の創造と、これらを実践できる高度な専門的な知識を持つ人材の養成による雇用の創出を促進し、その結果として「知の増殖型サイクル」としてデジタルアーカイブの効果が認められ、さらにデジタルアーカイブの新たな展開が期待できる。また、これにより大学は地域に開かれた「知の拠点」となりうる。

デジタルアーキビスト資格認定機構

本学が中心となり、佐々木正峰先生(元文化庁長官)をはじめ、多くの各界関係者の協力を得て全国規模のデジタルアーキビスト資格認定機構を設立し、すでに全国で約4,000名の有資格者が活躍している。

目的

- 本事業は、地域に根差し地域社会に貢献する大学として、本学独自で育んできたデジタルアーカイブ研究を活用し、地域資源のデジタルアーカイブ化とその展開によって、伝統文化産業の活性化などの地域課題の実践的な解決や新しい文化を創造できる人材育成を行い、**地域の知の拠点となる大学**を目指すものである。
- 具体的には、地域における地方創成イノベーション計画に呼応し、以下に示す地域の代表的な伝統文化産業と文化遺産について、デジタルアーカイブ研究とその利活用を行い、それぞれ**伝統文化産業の振興と新たな観光資源の発掘**を行う。
(1)飛騨高山の匠の技デジタルアーカイブと伝統文化産業の振興
(2)郡上白山文化遺産のデジタルアーカイブと新たな観光資源の発掘
- 地域と大学が緊密に連携してデジタルアーカイブ研究を推進し、**地域で新たな価値を創造できる人材**の養成を行う。

地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業

事業概要 知識基盤社会においてデジタルアーカイブを有効的に活用し、新たな知を創造するという本学独自の「**知の増殖型サイクル**」の手法により、地域課題の実践的な解決方法を確立するために、**地域に開かれた地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備**をする。
このことにより、地域課題に主体的に取り組む人材を養成する大学として、**伝統文化産業の振興と新たな観光資源の発掘**並びにデジタルアーカイブ研究による**地方創成イノベーションの創出**を行う。

私立大学研究ブランディング事業実施委員会

デジタルアーカイブにより新たな価値を創造できる人材の養成

